

2009年度 大阪大学 前期 地理(外)

(I)

問一 A:カナダ B:日本 C:フランス D:ドイツ E:イギリス

問二

ここ数年原油価格高騰や原油枯渇への懸念から、自動車などの燃料としてトウモロコシやサトウキビを原料としたバイオ燃料の導入が進んでいる。また、植物由来のバイオ燃料は、大気中の二酸化炭素を増大させないので、地球温暖化を促進しないことも評価されている。しかし、家畜の飼料が不足して畜産物の値段が上がっている。またトウモロコシの作付け拡大が小麦の作付けを圧迫し、食料価格全体の高騰を招いている。(192字)

問三

高度経済成長期に日本人の食生活が多様化し、パン・めん類・畜産物の消費量が増大した。その結果、小麦や飼料作物の自給が困難となって輸入が増大し、穀物自給率が低下した。しかし、米の消費が減少する反面、食糧管理制度によって優遇されていた米は増産が続いて過剰な在庫が生じたため、1970年ごろからは減反政策が実施された。また、過疎化や高齢化によって離農する人が増えたことも、休耕田や耕作放棄地が増加した一因である。(202字)

(II)

問一

① 垂直 ② 輸出加工区 ③ NIEs ④ WTO

問二

気象災害や国際経済変動の影響を受けやすく、経済基盤が不安定な上、石油危機以後、一次産品価格が低迷しているため、経済が停滞している。また、過当競争によっても価格が低迷し、国民の多くが貧困に陥っている。(99字)

問三

国家の保護政策のもとで他国との競合が生じないため、製品の品質向上への意欲に欠け、粗悪な製品が多い。また、国内の市場が狭いため経済成長に限りがあり、国民の多くが貧困から抜け出すことが困難である。(96字)